三重オーストラリア・ニュージーランド協会
http://www.mieoznz.com/

ニュースレター

14/6/14
第２７号

≪　本号の目次　≫

【特集】第１２回オーストラリア・ニュージーランド親善交流旅行
（１）〔記録〕旅行のあらまし　　宮本忠
（２）〔報告〕オットセイのあかちゃんの滝つぼ遊び　立石素子
（３）〔報告〕ワイナリーめぐりとホエール・ウオッチング　立石　雅彦
（４）〔報告〕ニュージーランド南島の草木たち　杉山節子
（５）〔報告〕来日する外国人を親切に　宮本由紀子
（６）〔クレーム〕　レンタカートラブル　宮本　忠

【特集】第１２回オーストラリア・ニュージーランド親善交流旅行

（１）〔記録〕旅行のあらまし　　宮本忠

今年度は、参加者の都合により、例年と異なり、一週間という短期間の旅行となった。天候にも恵まれ、楽しく意義深い旅行ができた。ただ、いつものようにレンタカーを利用したが、この会報の最後に報告するように、トラブルが発生した。旅費は、土産代などの個人用を別にして、一人予定通り約２０万円。

旅行の名称：南太平洋特に鯨街道、ワイナリードライブ旅行
期間：１０月１６日　水曜から１０月２１日　月曜
役割分担：旅行委員長・カメラ　北出　勲
会計　立石素子
運転　杉山行恵・立石雅彦・立石素子・宮本由紀子。
モーテル、渉外　杉山節子・宮本由紀子
記録　宮本　忠
班の編成：松阪班；北出　勲・杉山行恵・杉山節子。
鈴鹿班；立石雅彦・立石素子・宮本　忠・宮本由紀子

午前９時までに全員元気で集合場所に到着。シンガポール航空は、関西空港第一ターミナル４階国際線 H カウンター前であった。
航空券発券、シンガポール空港内ホテル予約などはワールドエクスプレス（神戸市）
共同基金と朝のミーティング：会計さんに共同基金として各人５０NZ ドルを預けておき、そこから入場券などの代金を一括支払った。朝のミーティングで報告と調整を実行した。

旅行行程：

１０月１６日（水）

関西国際空港（関空）午前１１時過ぎ離陸。シンガポール国際空港（チャンギ）にて乗り換え。夜、ニュージーランドに向かう。機内泊。

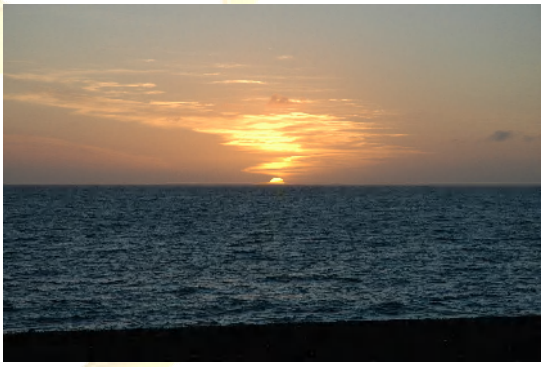
１０月１７日（木）

クライストチャーチ国際空港に朝、無事到着。空港レンタカーオフィスで予約済みの８人乗りバンを借りる。駐車場でオンボロ車だと知り不安が走る。クライストチャーチ市内を通過し、国道１号線を北上。１時間ほど（約６０km）で、ぶどう生産の新開発地のワイパラ、カンタベリー地方北部に着く。自然豊かなワイパラ峡谷近くのワイナリーでのんびり昼食。夜間飛行の疲れが癒される。約１２５km、カイコウラビジターズセンターに約２時間半で到着。モーテル・渉外担当の MY さんたちが親切なおばさん係員に案内アドバイスされて約１時間以上かけて宿泊施設決定。今回の旅行基地であるモーテルに夕方チェックイン。

１０月１８日（金）

登山好きな松阪班は、オットセイコロニーなどの野生動物や雪を頂く山々、半島、海岸の景観を楽しみながらカイコウラ周辺を中心にハイキング。その間、現地の人や海外からの旅行者と情報交換、談笑。
鈴鹿班は、朝、山中の滝壷で遊んでいる野生オットセイの子供たちを訪問。カイコウラから約 65km のニュージーランドで有数のブドウ産地ブレナムにドライブ。マルボロ地方の中心のこの町はブドウ畑にすっぽり包まれた感じ。インフォメーションセンターで教えてもらった係員お気に入りのワイナリーでテイスティング、昼食。左右にブドウ畑が広がる丘の上のワイナリーでも高級ワインのテエイスティング。モーテルに帰る。夕・朝食の準備のために女性たちがレンタカーで買い出しに行く途中、後輪パンク模様。親善交流旅行１２回目で初めての出来事。モーテルの主人、丁寧に手伝いアドバイス。そして大きな美味なるアワビとウニの差し入れ。

１０月１９日（土）



早朝、SY さんの案内で近くの浜に日の出参拝。朝日にカイコウラ山頂の雪が光り、その前の海を二頭のイルカが横切った。
午前。松阪班と TM さんが鯨ウオッチングツアー。鯨の他にシャチも出現し、ご満悦。TM, MT, MY さんがパンク修理のためのガソリンスタンド、修理工場を探すも、かわいい街、土曜休日などのため半ば絶望。気分転換、水族館見学。全員が合流して、昼食。レストランのウエーターである日本青年に紹介されたのをきっかけに、パンク修理できた。やっと安堵。浜で寝そべったり、散策したり。近くの山にトレッキング（山歩き）。夕飯は、クライフィッシュ（イセエビ）などで‘打ちあげパーテー’。

１０月２０日（日）

日の出を拝んだ後、７時前、一路クライスト国際空港。約１８５km。ガソリンを満タンにしてレンタカーを、強いクレーム付きで返納。午前、シンガポール国際空港に向かう。
夕方、シンガポール空港到着。関空行きは翌日の真夜中に離陸。その間、空港内ホテルで仮眠。

１０月２１日（月）

午前１時、シンガポール空港発。
午前９時前、旅行前に大手術を受けた KI さんを含め全員元気で関空にて解散。

・旅行に際して次のことを心がけた。

国際免許証を取得すること。運転は夜間厳禁。安全安心運転に全員で協力する。

荷物は、移動が多いのでできるだけ少なくする。

持病の名前、薬などは医者に英語で書いてもらっておくこと。また、めがね、杖などを必要品は点検しておく。

虫さされに弱い人は、薬などを考えておく。

紫外線が強いので、サングラス、日焼け防止対策を用意する。

夜と昼の寒暖の差が大きいので、対応できるように服装を準備する。洗濯は、モーテルで可能。

ハイキングなど、歩くことが多いので、履きなれているものが望ましい。

日本で使用している電気器具、例えば、電気ひげそり器などは、変圧器が必要な場合がある。出発前に旅行用具店などで訊ねておく。

（2）〔報告〕オットセイのあかちゃんの滝つぼ遊び　立石素子

滞在二日目、健脚組は半島に、残った私達は予定通りブレナムへ車でドライブに出かけました。その途中にオットセイのあかちゃんが群れをなして遊んでいるという滝つぼがあるという情報があり、四人で慎重に確認しながら車を走らせて見つけました。時速１００㎞でドライブしていたら通り過ぎていたかもしれません。地名が書かれた小さな看板と駐車ができる空地が国道沿いにあるだけでした。１０分程歩いた林の中に滝つぼはありました。それほど広くはない所に４０から５０匹の赤ちゃんオットッセイが飛び跳ねたり、泳いだり、岩によじ登ったり、滝から落ちる豊富な水の中で自由奔放に遊ぶ様子を目の前に見た時、現実ではなく映像の世界ではと一瞬思いました。

写真を撮っていると、少し大きいオットッセイが前に出て来て、他の小さい赤ちゃん達を守るかのように歯をむき出して威嚇してきました。柵などは一切なく、野生動物ですから噛むことがありますという注意喚起の立札があるだけでした。オットセイの赤ちゃんは３から５㎏位で生まれ１年後には１２から２０㎏位になるということですから、我が家の一歳半の孫（１２㎏）と比較してみると生後１，２年の赤ちゃんオットセイが多いように思いました。

赤ちゃんオットセイたちは朝、親と別れて沢を上ってきて、滝で遊んで（餌を捕る練習）夕方には海に戻って行くと聞いていましたので、夕方近くブレナムの帰りにも立ち寄りました。数はかなり減っていましたが沢を上ってくるオットッセイもいました。その様子を見ることができて納得していると林の中でガサガサ音がして、近ついてきます。背後は滝つぼで逃げ場がありません。怖くて固まってしまいました。オットセイだと分かった後も安心はできません。もうこれ以上こちらに来ないで！と祈りました。

自然や野生動物を真近に見て、成り立ちや生態に興味を持ち、保護に協力していくという自然な流れの中に自分がいることに気が付きました。私達の好物、鮑を一般の人々が捕ることを禁止しないのは、とうざけ

ることによる無関心や無知がかえって資源を損なうと考えるからだとか。アマチュアでも一定の大きさ以上の鮑であれば一日に１０個捕ることができるという規則の恩恵をその夜受けることができました。管理人さんからの差し入れでしたが、偶然と必然が重なって頂戴できました。大きな雲丹、鮑の刺身とソテー、美味しかった！！ニュージーランドの豊かさと寛容さを改めて思いました。いつもながらの楽しい旅でした。参加されました皆様にお礼を申し上げます。

（3）〔報告〕ワイナリーめぐりとホエール・ウオッチング　立石　雅彦

同行の皆さんは長期滞在したり、再三旅行したりしてニュージーランド通ですが、わたしは初めての訪問でした。クライストチャーチ空港でレンタカーを借り、早速国道 1 号をカイコウラに向け出発すると、羊や牛はいるが人影がない広い牧場が続きます。低い山の頂上まで牧草で人の手が隅々まで入っているのですが、どのように管理しているか不思議です。穀物や野菜を栽培している畑も目に入ってきません。そのうちに、ブドウ畑がちらほら見えてきました。今回の旅行は、ワイナリーを訪れることが目玉のひとつになっており、昼食は新興のワイン産地であるカンタベリー地方ワイパラ村のワイン醸造所でとる予定です。どこに入るかは現地で決めることになっています。道路脇にワイナリーのしゃれた看板があったので、その指示に従い右折してしばらく行くと「ペガサス・ベイ」というシャトー風の建物がありました。すでに先客があり、広い庭に置かれたテーブルで食事をしています。その中に東京から来た 2 人の若い女性がいたのには、驚きました。クライストチャーチから離れており公共交通機関もなく、旅行者には近づきにくいところだからです。タクシーで来たとか。ワインのテイスティングをさせてもらった後お庭で昼の食卓を囲みましたが、料理には満足しました。でも、お酒に強くない人もおり、また運転者への遠慮もあり、ワインなしのランチになったのは悔いが少し残ります。

翌日は、松阪班と鈴鹿班に分かれて行動することになりました。わたしたち鈴鹿班の目的地は、南島北部マルボロ地方にあるブレナムのワイナリーです。ブレナムはクライストチャーチから北に向かってはじめて出会う町らしい町かもしれません。住宅街が広がり商店もあちこちにあります。鉄道駅に近くの案内所で、ワイナリーをいくつか紹介してもらいました。

最初に向かったのは、「ロック・フェリー」です。ワイン畑の中に木立で囲まれたすてきなレストランで、テイスティングさせたもらった後昼食をとりました。魚料理がとてもおいしかったのですが、ここでもワインなしでした。次に訪問したのは、「ブランコット・エステート・ヘリテージ・センター」です。広大なワイン畑に囲まれた丘の上の鉄筋コンクリート造りのモダンな建築物がありました。ここでは、ビデオでワイナリーの概要や歴史を見せてくれます。広大な畑もかつては羊牧場でした。19 世紀の終わり頃ワインフィールドになったとか。ブレナムは Brenheim と綴ります。ドイツ風の地名ですね。ドイツ系の人々が故郷を思い出して、ブドウ栽培とワイン醸造を始めたのかと推測したりしました。

たくさんの白ワインをテイスティングさせてもらいました。ワイナリーの方々は、私たちの要望に応えて、適切なワインを次々にてきぱきと出してくれました。ワインにはさまざまな種類がありその一部を口にしただけで確かなことはいえませんが、ワイパラでもブレナムでも、こくのあるしっかりした味がしました。わたしの飲んだカリフォルニア・ワインもオーストラリアワインも口当たりがよくさっぱりしていました。そんなことから、ニュージーランドでもさっぱりしたワインが主流かと思っていたのですが、安物しか口にしていない者の勝手な思い込みでした。

カイコウラ３日目は、鯨見物経験のある者は浜辺を「いるか」を見ながら散策し、経験のない者はホエール・ウオッチングの船に乗ることになりました。わたしは、松阪班とともに鯨ツアーを選びました。鯨を見ることができる確率は高いとのことですが、まれに遭遇しないこともあるようです。その場合は、料金の 80%が戻ってきます。

集合場所からはバスで乗船場に向かいます。集合場所は鉄道の駅と一体になっていて、私たちが出発をまっている時にちょうど北へ向かう列車がやってきました。観光用の列車はとても豪華で鉄道ファンの私は次回はこれに乗ってみようと思ったことでした。

乗船場から私たちの乗ったカタマラン(双胴)船は高速で沖合に出ていきます。海岸の穏やかさからは想像ができない高い波に船室は大きく上下します。最初に停船した所で鯨は発見できませんでした。波が大きく、船が止まっていても波によって数メートル上下します。船酔い止めを飲んでから乗船するよう言われたことが納得できました。

３カ所目ぐらいで大きなマッコウクジラの背中が見えました。しばらく船が並走していくうちに、頭を水面下に下げ、尾びれを高く上げる動作を見せてくれました。われわれの船めがけて、港にいた船が 2 隻こちらに急行してきました。こうして、情報交換し合いながら、発見の確率を上げているのでしょう。また、このようなときのために高速艇が使われているのでした。

続いてシャチが 2 頭並行して泳いでいるのに出会いました。シャチは時々水面上にその一部を見せるだけなので、写真を撮るのがたいへんです。ガイドさんが、「もうじき浮上する、カメラを構えて」と教えてくれるのですが、安物のデジカメではうまく対応できません。この目に焼き付けておくことで、満足することにしました。

船からは遠くにカイコウラ山脈の雪をかぶった 2,000m 級の山々が眺められます。これから夏に向かうと雪もなくなってしまうでしょう。絶好の季節を雄大な自然の中で過ごすことができました。乗組員や係の方々がとても親切だったことも忘れられません。

（4）〔報告〕ニュージーランド南島の草木たち　杉山節子

お天気にも恵まれ楽しい 3 日間のドライブ旅行。カイコウラの街は家の庭に沢山の原色の花を見ることが多かった。国道や街道などからもいろんな草木を楽しみました。桜　ばら　アヤメ　赤や桃や白色の日本のボケの花に似たもの　名前が分からないがトンガリ帽子のような形で２～３メートルもある青色の花　日本の桐の花に似たパウロニア　道端にはひなげしと、飽きることのない街道でした。

フロントで教えてもらった山に行くことになりました。日本で言います里山です。登山口は牧場の横から始まります。エニシダの様な黄色い花が登山道の両側に咲き乱れ高度を上げていくと熱帯のシダの森になりました。ここは以前協会旅行のときに歩いたミルフォードと雰囲気がよく似ています。一輪ヤマルリ草を見つけました。花を見つけることは少なく緑に包まれて癒される登山道です。時間もなく頂上に行くことは出来ませんでしたが、又の楽しみにして名前も分からない山を後にしました。

（5）〔報告〕来日する外国人を親切に　宮本由紀子

クライストチャーチ空港到着後、予約してあったレンタカーに乗り一路北上し昼食予定地のワイパラワイナリーをめざしました。道路沿いのワイナリーには試飲や食事に数回寄ったことがありましたが、今回はクライストチャーチよりのワイパラ地域にはいってすぐのワイナリーを見つけ幹線道路（ステイトハイウエイワン）から右折し、下見がてら寄ってみました。この地域には１８箇所のワイナリーがあり、そのうちの４箇所にレストランが併設されています、ここは試飲もレストランもありで昼食はこのレストランに決めました。おすすめの料理に野菜を追加して、見晴らしのよい外のテーブルで青空と森と大地の緑をスパイスに広々とした空間でおいしくいただきました。一人分のダックの骨付きもも肉は２本、予定しなかった前菜のサービスもありで少食の私たちには四人分のメイン料理で充分でした。シャクナゲも咲いている庭は森に続いていて川もあり、三人がかりの大きな大きな木を二人で抱きエネルギーをもらいおおはしゃぎをしたりして夜間飛行の寝不足も解消されました。

カイコウラに着いて最初にインフォメーションセンターで宿探しをしましたが、７つのベッドを用意できる宿は（木、金、土の三泊）なかなかみつからず係りの女性は、あちこちに電話をして探してくれました。でも、必ずどの宿もダブルベッドで、シングルベッド二つというのは不可能でした。東京オリンピックに備えて東京のホテルではツインベッドをダブルベッドの部屋に変えているとニュースできいたことがありましたので、習慣の違いでしょう。しかたがないので、私たちがダブルベッドを使うつもりでダブルとツインのファミリータイプの部屋にしました。それでも難しく、分宿も覚悟していると、もう一箇所電話してみるわ、これが最後の電話よとダイヤルしてくれました。そして、最後の最後に見つけてもらえたここが一番お値打ちな宿でした。コッテージ二棟をかりることになりましたが、お互いの行き来に靴を履いたり脱いだりが少しめんどうでしたが、気持ちよく使うにはやはり靴は外で脱ぐ習慣は変えられそうにはありません。オーナーも部屋に入るときは、靴を脱いで入って来ていました。７人３泊全部で７７０１３円でした。１３円をTMさんが寄付してくれました。ラッキー！

夕方にセンター事務所に入りなかなか宿が見つからなかったので、時間がかかり閉店時間の５時はとっくに過ぎてしまいました。３０分くらいオーバーワークさせてしまいました。それでも、最後は、係のおばさん、事務所の外まで見送ってくれ、おとなと子供がしているようなハグをして別れたやさしい女性でした。とても背の高い女性でした。

日本で予約した自動車は国産を指定してあったのですが、貸してもらえたのは他国産車でした。２日目にブレナムのワイナリーで一日過ごしてカイコウラのモーテルに夕方帰宅。近くのスーパーに夕食を買いにいったところ、途中から変な音がし始め、スーパーの駐車場に止めチェック、左後輪のパンクでした。そのままにしておくことはできず、ゆっくりとモーテルまで帰り、モーテルのオーナーに相談したところ、早速スペアタイヤの取り付けを手伝ってくれました。最も手伝ったのはこちらのほうで彼が一生懸命取り付けてくれました。スペアタイヤは車体の下に取り付けてあり、それをはずすのが大変でした。大きな体で車体の下にもぐり力いっぱいネジを回したり、工具もいろいろ使い大変なことになってしまいましたがようやく取り付けることができ一安心。翌日土曜日、オーナーのアドバイス通りタイヤセンターにでかけ見てもらいました。「当店には該当するタイヤがないから、そのままスペアタイヤで運転するしかないが、速度をだしてはいけない。危険です」といわれ困惑しました。スペアタイヤなしで運転するとはとても怖いことです。クライストチャーチのレンタカー事務所に連絡して交渉してもらうと、そのままスペアタイヤで空港までくるよう

にとのこと、あるいは「自分でタイヤを見つけて交換してもよいが支払いは自分ですること。領収書をもってくれば後で払い戻しする」とのことであった。他の店も探しましたが、土曜日で休日。あきらめかけていたところ、昼食に寄ったレストランで働いていた日本の男の子に聞くと、タイヤ屋さんを教えてもらえました。そこに行くと、閉店でしたのでやはり休みなんだとがっかり。でも、隣の店の店員さんに相談すると、オーナーに電話してタイヤのことを聞いてあげると親切に言ってもらえました。電話したら店の裏で仕事をしているところだったので大助かりでした。ストックのなかから使えそうなタイヤを探してもらえましたが、同じサイズではないから帰ったら取り替えるようにとのこと。苦労して取り付けたスペアタイヤをまたはずして取り替えることになりました。またまた大きな男性が車体の下にもぐって仕事をするのは一苦労。私たちの小柄な SY さんが大活躍で、彼のことをオーナーは、「とってもハンディーだ」と喜んでいました。日本に行ったことがあると、いろいろな地名をあげその中に浜松があり、いぶかるとヤマハモーターボートの代理店だから浜松に研修に出かけるとのこと。道理でお店の看板にヤマハと書いてありました。「休日なのに親切にしていただけてうれしい」とお礼を言うと、「日本でも同じように外国の人に親切にしてあげて」と言われ、「オフコース！」と心の中でウインクしました。

（6）〔クレーム〕　レンタカートラブル　宮本　忠

今回の旅行も、いつものように全員元気で帰国したことは、以上のとおり。ただ、いつもと違ったのは、レンタカー問題であった。帰国後、問題につき、レンタカー日本オフィスに対して、郵便書留にて概略、以下のようなクレームを行った。差出人は、三重オーストラリア・ニュージーランド協会会長　宮本　忠とした。

遺憾ながらクレームいたします。当協会は原則、毎年ニュージーランドとオーストラリアを交互に親善旅行を実施しています。今回で１２回です。レンタカーは毎回、貴社を利用しています。今までは何の問題もなく快適なドライブを楽しんできました。しかるに今回、見逃すことのできない以下のような問題があり、女性３名、男性４名のシニアは、安全運転に不安を感じ、かつ無駄な時を費やす旅行となりました。

１０月１７日　木曜：

朝、クライストチャーチ国際空港に到着。直ちに日本で予約してあるレンタカーオフィスに行った。手続きを済ませ車の鍵を受け取り案内はなく広大な駐車場に入る。手分けしてやっと８人乗り車を発見。不安が走る。日本でレンタカー事務所に申告した日本車でなく、タイヤてかてか、ミゾのすり減った他国産の車だったからである。海外レンタカーをこれまで数多く利用してきたが、初めての体験。クライストチャーチを通過し、国道一号線。後部座席の者がいう。「後部車輪の方からカタゴト変な雑音が時々聞こえる」。

１８日　金曜：

夕方六時過ぎ、女性二人が夕食と朝食の準備のため、街に買いものに出かけた。その途中、後輪に異常を感じモーテルに帰還。モーテルのオーナーに相談。「これはパンクだ」。車の下にモグリ、スペアタイヤを取り出し、交換することを手伝ってくれた。ガソリンスタンド、タイヤ修理工場を紹介してくれた。工場のおにいさんが言った。「パンクしている。このタイヤは当店にないのでどうすることもできない。このスペアタイヤでは８０km 以上のスピードをだすと危険。長距離を走ることも危険だ」。そして空港レンタカーオフィスに電話してくれた。「自分でタイヤ交換をしてくれるところを探し交換してもよい。できないならばスペアタイヤで空港まで来るように」との返答。カイコウラから空港まで２００km はある。午前の飛行機にのるのだからぶっ飛ばして空港まで行く計画を立ててきた。これは難問。オーナーに紹介されたガソリンスタンドは土曜の夕方で閉店。

１９日　土曜：

午前、タイヤ修理のために３人を当て、他は鯨ウオッチングに出かけた。先ず、給油のためガソリンスタンドを訪れた。係のお兄さんが言う。「どの種類の油を入れたらよいかわからない。レンタカーに関係する文書を見せてください」。空港オフィスでもらった文書を念入りに読み、レギュラーを入れてくれた。これも初体験。いつもはスタンドでレンタカーに給油してもらうとき、「ハイオクか、レギュラーか」という短い言葉でことが足りてきた。彼が説明した。この車には、「ディーゼル車とワッペンがはってあるので油の種類がわからなかった」。ここのスタンドもこのタイヤ修理はできないとのことだった。他のスタンドは土曜休日。途方に暮れて海岸沿いの水族館を見学。鯨組みをピックアップして午後一時過ぎに全員で昼食。レストランを出るとき、現地女性と結婚しているという日本人青年ウエーターがタイヤ修理店を紹介してくれた。喜んで駆けつけた。土曜休日だった。しかしそこの店員と思しき女性が隣の浜松のモータボート代理店に電話してくれた。店の裏で仕事をしていた中年の大柄な男性がいろいろなタイヤを次々に車輪に合せ、スペアタイヤと取り替えてくれた。「完全に車輪に会っていないが、これで大丈夫」とにっこり。渉外係の MY さんもにっこり。彼は店主で時々、ボートの用務で浜松に出かける親日家であった。

２０日　日曜：

すっきりした気分で全員で朝食。モーテル近くの浜辺で日の出を仰ぎ、一路、約２００ｋｍのクライストチャーチに向かう。空港付近のスタンドでガソリン満タン。空港オフィスにおいて以上を述べ、「これは重大クレーム」と声を大にしながら、車のキーを返納した。若い女子係員、「最初のときの担当は店長。本日は休み。明日月曜、出社したら必ず伝えます」と。

クレームにおいて、英語不自由な、地理不案内、長距離運転する日本人にとってこのようなレンタカーでは困ることを強調して、日本オフィスに郵便書留便を送った。結果、現地空港オフィスから「おわび」として若干の金印が振り込まれてきた。

編集後記

４年に１度のサッカーの祭典ワールドカップが開幕しました。開催国はブラジル。オーストラリアやニュージーランドと同じ南半球の国です。同じ南半球の国といっても、オーストラリアやニュージーランドは、日本とほとんど時差はありませんが、ブラジルは１２時間の時差があるそうです。世界地図で見ても、ブラジルは地球のほとんど反対側。そんな国で開催されているワールドカップには、日本やオーストラリアも出場しています。両国の健闘を祈りたいと思います。（稲）

発行 三重オーストラリア ・ニュージーランド協会
発行責任者 宮本忠 ＴＥＬ／ＦＡＸ ０５９－３６８－２１１２
〒５１０－０２２６　鈴鹿市岸岡町２６２６の９５
Email： tyk15m@ybb.ne.jp
※ この会報にある文章・写真の無断掲載はご遠慮下さい。